

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report 11

3 はじめの言葉

2014 No.722

4 情報社会を生き抜く

センスと人材の確保

田原文夫

問題は、情報入手の方法、仕掛け作りではない。入手した情報への対応／リアクションがポイントである。入手した情報の高度化のための作業も重要なカギとなる。そのためには、Intelligence (情報処理) する Intellectual (知力) の涵養が問われている。また、今、何が必要で、何が不要かを見分ける Affordance (本能) の必要性も確認したい。

1 1 情報社会を考える その50

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

相変わらずのシステム遅延

相変わらず新システム移行へのプロジェクトが頓挫し、本稼働の遅延を公表する事象が出ている。もちろん、出来損ないのシステムを稼働させてしまうよりはいい。従前のように社内で収束収斂している時代はともかく、昨今の企業情報システムは様々な社外ユーザーのシステム利用に寄与しているだけにたいへんである。

最近新システムへの移行時期の延期を明らかにしたカード会社でも、「より安全・確実に移行するために」と説明しているが、新システム移行に伴う各種サービス内容を予め顧客に表明してきていただけない、システム開発プロジェクト遅延の公表は、さぞかし苦渋なことであつたらう。

1 3 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-B I M構築が必要か その45

水田 浩

オープンガバメント OG 11 工業化社会をデジタル化する

社会全体が工業社会から情報社会に移る第一段階ではICT (情報通信技術) が個々の組織の効率化のために、それぞれが独立して導入され、第二段階では工業社会の組織はそのままにして組織間をICTで統合してゆく。社会全体を情報社会に変える準備段階である。第一段階での最初のデジタル化運動が 1994 年から世界規模で行われたCALS運動であった。そして次に行われたのが電子政府運動であった。

19 連載 アーキテクチャ論 (43) 言語行為展望論に基づく

ビジネスアーキテクチャ

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

ビジネスアーキテクチャでは組織間のビジネスプロセスを記述する必要がある。本連載でもArchiMateによるビジネスプロセスの記述例を紹介した。

Jan Dietzらによって提案された組織のためのビジネスモデル設計開発方法論 (Design & Engineering Methodology for Organizations, DEMO) は、Winogradらによる言語行為展望論 (Language Action Perspective, LAP) に基づいている。本稿では、まずLAPについて概説する。次いでDEMOについて説明する。

28 IT 新時代とパラダイム・シフト 第60回 訪日外国人旅行者が注目する

世界のクチコミサイトのインパクト

根本忠明

最近、我々日本人にとって意外な場所が、訪日外国人観光客の人気スポットになっている。これには、彼らが利用する海外の旅行クチコミサイトが大きく貢献している。6年後の東京オリンピックに2000万人もの外国人観光客を招聘するには、海外の旅行クチコミサイトの影響力に注目すべきではないだろうか。

31 続インテリジェンスへのいざない 58 曖昧／不確実なデータから

いかにして解を求めるか

今井 武

不確実さを含む過去の事実データから、いかにして将来進むべき方向性を探るか。これは私たちが宿命的に課せられた命題である。真実が再確認できる科学的事実に対して、人の関与が存在する歴史的事実には多くの曖昧さ、不確定さが残されている。

34 一味違うウェブ検索

第四十八話 デング熱を最初に疑ったのは

医者ではなく感染者の母親だった (2)

ぐうのうえぶへい

これまでのデング熱のマスコミ報道での基本的な問題は、自ら調査する調査報道をせず、政府報道をそのまま伝える発表報道で済ませようとした点にある。現在、デング熱に代わり、エボラ出血熱に関するマスコミ報道が増えている。

デング熱報道の過ちを繰り返さないためにも、これまでのデング熱に関するマスコミ報道の問題点を具体的に整理しておく。問題は、「国内と海外とを区別した感染・発症者数の統計数値のウソ」、「国内“初”感染のウソ」、「隣国の台湾、韓国、中国などでのデング熱感染被害に言及していない」の3つに要約される。それについて、詳しく説明することにしたい

36 連載 四字熟語力トレーニング

すぎやまちヒロ

案内／お知らせコーナー

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 229頁 石井 義興 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 EUCが必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付 録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁 豊島一政・木村 哲 共著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCにできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構築
第三章 Codd博士によるOLAPプロダクトの評論ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付 録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁 田原文夫 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁 一橋大学教授 安田 聖 監修 aism情報セキュリティ・マシナリ研究会 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM/KLEZの蔓延と最新記
第二章 aism情報セキュリティ・マシナリ研究会の発足	第十二章 メールが届かない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 住みネット運用のための情報オーナーの建設
第四章 業界を駆けめくったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛事情心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意義と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2002年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ関連研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の普及と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁 高田 顕重 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日の課題	第五章 情報システム革新
第二章 経営戦略と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成長戦略
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 212頁 安田 聖 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方格子のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計算方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの得広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 288頁 加藤 洋一 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 発後メモ企業体質
■ ニュースリリースは双方向運搬	■ 守るも求めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発後のテクニック	<付> 記者とうまく付き合う16の鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれば、国産グローバルサーバー
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁 迫 忠幸・湯浅 誠 共著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開発手法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米軍チーム雇用の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな敵っ人
第四章 WOOに向けて	第十四章 米軍軍事情報と新たな構み
第五章 FJO, IBM編年	第十五章 開拓フル稼働とバグハンティング
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番最後日誌
第八章 米軍チーム立ち上りの流れ	第十八章 既済システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働その一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米軍チーム、敵となる三人組	第二十章 稼働その二 安定稼働と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

